資料４

鳥取県立美術館整備の進捗状況について

令和４年 11 月 26 日
美術館整備局・博物館

１ 県立美術館整備運営の検討状況等

（1）施設整備

○杭工事、基礎工事が終了し、現在、２階までの地上躯体工事を行っている。

○PFI 事業者の協力を仰ぎ、建設現場での授業や親子見学会等を実施している。

11 月 16 日現在 24 件実施(約 2,000 名)、10 件予定

（4 月 11 日 建設技術センター 6 名、 4 月 22 日 鳥取短期大学住居デザイン専攻 1・2 年生 約 50 名、
6 月 13 日 鳥取大学工学部 4 年生・院生 26 名、 6 月 16 日 鳥取工業高校 2・3 年生 約 80 名
6 月 25-26 日 食のみやこフェスティバル建設現場見学会 900 名
6 月 27 日 産業人材育成センター 9 名、 7 月 23 日 建設業担い手確保・育成事業親子見学会 約 100 名
8 月 9 日 鳥取県建築士会 70 名、9 月 7 日 米子工業高校 40 名、10 月 2 日 NPO 未来「県美ウォーク」200 名、
11 月 11 日 倉吉市生涯学習講座 15 名、11 月 27 日 盛り上げ部会気球イベント、倉吉市上灘公民館、
11 月 29 日 鳥取市城北公民館、12 月 4 日 北栄町文化団体、とっとり県美応援団 ほか）

（2）運営

○県内全域の文化団体等を中心に出前説明会の開催、ボランティアや友の会等の県民参画の仕組みづくりの「県民・団体との対話会」の開催、美術館の利用ニーズ把握のための対話会を PFI 事業者と一体となって行っている。（11 月 16 日現在 40 件実施 ３件予定(令和３年度実績 44 件)）

○出前説明会等とは別に、県立美術館ができることを知っていただき、気軽に想いを伝えていただく場として、「県立美術館で”やってみたいこと”あなたの夢をお寄せください！」と題し、該当などで気軽に参加できる県民アンケートを行っている。（11 月 14 日現在 506 件回答）

○県民参画の一環として、ロゴ・シンボルマークのデザイン案を公募し、1,726 点の応募作品から 6 点について LINE による「一般投票」を行った。最終審査を経てデザイン調整等を行い、来年３月の開館２年前カウントダウンイベントで最優秀賞を発表する予定。

○開館初年度の企画展について、県立博物館学芸員やＰＦＩ事業者を中心に検討を進めている。

２ 県立美術館の整備推進にあたっての庁内関係課との連携、倉吉市との連携

○４月に中部総合事務所、文化政策課、観光戦略課の兼務参事との会で諸課題の庁内の共通認識を深め、７月 12 日に兼務参事にまんが王国官房を加え、倉吉市幹部との意見交換の場を設けた。

【情報共有・意見交換の項目】

・県立美術館の整備状況、倉吉パークスクエア全体のサイン計画
・倉吉市の整備計画（周辺インフラ、リス舎跡・集いの広場周辺、史跡大御堂廃寺跡）との調整
・美術館整備を契機とした連携（機運醸成、観光行政等）

３ 県立美術館開館に向けた地域団体等の取組み支援

（1）美術館を支える仲間づくりや活動の創設に取り組む地域団体等を支援

・地域団体等が自ら企画実施する美術館づくりワークショップ、ボランティア育成等の美術館を支える活動を支援。
・今年度申請・交付決定件数６件 （令和３年度交付決定８件）

（2）地域でつくる美術館応援事業

・地域で活動する団体等が取り組む美術館開館に向けた機運醸成及び地域活性化につながる取組を支援する
・交付申請・交付決定４件（上井商工連盟 10/16「ばえん祭」、倉吉銀座商店街 10/23「福高祭-アートで福高」、盛り上げ部会 11/27「気球イベント」、倉吉商工会議所青年部「アート飯(めし)」）

（3）全県美術館構想に向けたネットワークづくりスタートアップ事業

①県内美術館等が県内外の美術館等と連携し実施する展示事業の開催経費を支援。
・交付申請・交付決定（倉吉博物館、米子市美術館、鳥取民藝美術館）

②学校所蔵芸術作品調査事業（身近なアート作品掘り起こし）
・7 月～8 月小中高に照会し、約 120 校から回答(作品あり約 60 校)、11 月以降学芸員等による調査

4　美術作品収集方針等の県民説明会の開催

○博物館が購入した県内外で議論が起きたアンディ・ウォーホルの《ブリロの箱》及び《キャンベルスープ缶》について、「美術作品収集方針」との関係等について県民説明会を順次開催している。

○これらの状況の記事（10月27日読売新聞鳥取板＝10月7日同紙関西版夕刊のリメイク）が10月27日ネットのYahoo!ニュースに取り上げられ5時間で 3000 件以上コメントがあった以降、全国放送のテレビ番組等で取り上げられた。また、11月3日にもヤフーニュースに BSS 山陰放送のニュース記事もあがり 3000 件以上のコメントが付いた。

（1）県民説明会の開催状況等

地　区	日　　時　　等	参加者数等
倉吉会場	9月13日(火)　午後2時から3時30分まで 倉吉交流プラザ　視聴覚ホール	約70名 会場発言者6名
鳥取会場	9月24日(土)　午後2時から3時30分まで 県立博物館　講堂	約40名 会場発言者13名
岩美会場	10月29日(土)　午後1時から2時30分まで 岩美町中央公民館　いわみんホール	約30名 会場発言者8名
米子会場	11月3日(木・祝)　午後2時30分から4時まで 米子市立図書館　多目的研修室	55名 会場発言者8名
南部会場	11月23日(水祝)午後1時から2時30分まで 南部町総合文化センターいこい荘　会議室	10名 会場発言者3名

＊上記に加え、米子市で再度開催することを調整中

(2)説明内容

・県立美術館の目的、コンセプト
・県立美術館の収集方針の拡大、新方針と収集した作品の紹介
・話題となっている《ブリロの箱》をはじめとした作品の芸術的意義、価値、活用方針等

↑ 11 月 3 日米子会場

(3)会場での主な意見・質問

○否定的な意見等

・高額であることから購入反対。
・《ブリロの箱》の5点購入についての質問
・作品の価値がわからない、県立美術館の目玉にはならない。
・鳥取県が収蔵する必要性や、鳥取県らしさや県民立美術館のコンセプトとどうつながるのかの質問
・3億円あるなら、全国コンクールを実施することや日本画や工芸作品等を購入する方がよい。

○肯定的な意見等

・説明を聞いて、収蔵する意義がわかった。
・《ブリロの箱》を展示する際の工夫についての意見
・作品購入の経緯はとりねっとでオープンにされており、県民は自ら調べて意見を述べることが必要だ。
・アンディ・ウォーホルの作品を鳥取県で見られることが楽しみだ。
・ウォーホル作品を活かすように。
・専門職の判断を信じる、任せる。

○その他

・年間18万人の利用者数に疑問。満たないという意見や、100万人を目指せという意見。
・県立美術館ができることを知らない人がいることや若い世代の関心が低いことから、県、PFI事業者に対する周知不足を指摘。
・アンディ・ウォーホルが知られていないのは、県が美術振興をサボっていたせいだ。
※各会場での「意見の概要」は、美術館整備局のホームページに順次掲載している。

(4)出前説明会等

○10月2日に倉吉文化団体協議会(計羽孝之会長)が開催したシンポジウム「県美・新規コレクション購入のあり方」で説明。(参加者数42名、会場発言者6名)

○これまでPFI事業者と一体となって、県内の文化団体や県民有志のグループや経済団体等に対し、美術館のコンセプトや施設整備や運営の計画、利用ニーズ把握、ボランティア・友の会等の県民参画の仕組みづくりの出前説明会等を行っているが、9月以降は美術作品収集方針等の内容を加え、実施している。

(5)今後の進め方

○今後も引き続き、県民に丁寧に説明していくため説明会を継続して開催するとともに、県立美術館の機運醸成に努めていく。

○説明会でいただいた意見等については、今後の対応を検討中。

5　美術館づくりワークショップ「アートの種まきプロジェクト」事業

(1)「県民とつくる　美術館ができるまでを伝える」フリーペーパー『Pass me(パスミー)！』の発行

・第7号（9月発行）

・第8号（令和5年3月発行予定）

(2)アートを通じたコミュニティづくり拠点「HATSUGA(はつが)スタジオ」の開設

・県立美術館開館までの間、アートやアーティストの存在を感じながら多様な交流をつくる拠点として開設した。

・智頭町在住の作家・淀川テクニック氏の作品《とっとりプラホウドリ》を常設展示している。

・オープニングイベント(11月12日　開所式、映像人類学者・松本篤氏によるトークイベント等)

・鳥取短期大学「芸術」科目学外授業(11月22日)

・淀川テクニック氏によるトークイベント(12月3日)

・今後の使い方例

トークイベント「ミュージアムサロン」

美術館づくり広報紙「Pass me!」制作関連ワークショップ

県民参画プログラムのミーティングや研修　など

↑　Pass me　第7号

↑　HATSUGA スタジオ　倉吉市下田中町 870　中瀬ビル1F

6　アート・ラーニング・ラボ(A.L.L.)の試行事業

(1)県立博物館企画展へのバス招待

○県立美術館開館後は、県内の小学4年生(又は3年生)全員が年に一度は訪れ、学び、楽しむことができるようにするためにバス招待事業を計画しており、今年度は10回実施。(11月16日～12月9日)

○鳥取短期大学と連携して、対話型鑑賞ファシリテーター養成に向けた実践の場として鑑賞授業の試行・検証を行っており、学生が小学生に対してファシリテーションに挑戦する授業も実施。(11月24日)。

(2)鑑賞プログラムの試行

○鑑賞プログラムの一つの展開例として、視覚障がい者と晴眼者が対話を通してアート作品を一緒に味わう鑑賞ワークショップ「ギャラリーコンパ」を開催。(11月26日)

○11月27日の「全盲の美術鑑賞者」白鳥建二さんを追ったドキュメンタリー映画の先行上映会・トークショーとあわせた「ウェルビーイングを共創するプレ美術館セラピープログラム　汽水域アートシェアリング2022」と題した、鳥取大学地域価値創造研究教育機構主催事業に美術館整備局と鳥取県立美術館パートナーズ　が共催したもの。鳥取市中心市街地商店街を会場に開催される「フクシ×アート WEEKs 2022 」との連携企画として実施。